



# 立川自衛隊進駐阻止闘争に決起せよ

全書　首の同人詩集卷一  
を、革命的人民、大衆の汗と  
く押し進めている。以下、立  
へ焰を燃しているへかくめい  
い抜かぬことを呼びかける。

三里塚の激闘を受けつぎ  
塹壕・放送塔堅持十一月進駐阻止へ

## 10・中核・四トロと対峙し 10・塹壕・放送塔を防衛す

、チスト集団  
過程と本音

が、一〇月五日東京地裁八王子支那の第一回審議を待たずしては  
變節を看みを「一切の勝利」の意  
延誤がなく且つ時間がかかる事  
部の第一回審議を待たずしては  
強硬的テニス・トレーニングの意  
に支えられてること  
ためいた反発的対応、さん拵一放  
送場に抱いていたる我々と闘う  
慶應。当醜態、市民への敵対的、  
や宣伝法の適用で中核「金銀連」  
に宣伝法の適用で中核「金銀連」  
『反戦監督』専分か、白ヘル『反  
戦労働者』の責任ある専分がオ  
ルク段階で、事もあろうに我々  
が「反対団體の名をかたって放  
送建設資本を集めた」などと、  
根も葉もない故意の申傷を行な  
い、「砂利で今度はアントと対決  
する」と豪語公然と至った彼らの  
眞意は「防衛費長官の告示が出る  
と、反戦放送には航空法が適用  
され公然と放送することが難しいの  
で、告示前に衝したらい」と九月一  
四日東京地裁八王子支部で語った  
宮内政議員とそのグループへの内  
容的解答を一切問にしただゆき

國體をめぐる現下の対立は、南北後、七年三月段階から世界同時革命へ至る基本的動向を示すものとして、十一月自衛隊進駐によって、敵權力との關係における軍事外交路線展開において、他方階級的動向を示すものとして、三里塚環状道路に押し上げられつつある。我々は、中核反対同盟を主導化して、理解していくのである。

戰略、規律に  
おける人派の解  
釈、延命策を粉砕せよ、  
「第一事」  
拡大強化で  
碎せよ、  
10・21を櫻発行は歴定  
なかつたなどと立証事を  
る理論戰線派（「戰旗」）  
号をもつて一度も西の川に  
へ迫る闘いもなしとなる  
マルキニの徒輩などは、実業  
團の砂川での  
立川自衛隊駆除をもじり  
まるで「眼」ではないかの  
立川自衛隊駆除をもじり  
追し、沖縄へ連なる上庄  
をかけて翻い抜く。  
社会党「青木行動隊長」  
に制御されジタバク行進で  
め一〇・一〇とはまるがん  
〇・一七以降、諸君は新た  
闘争の躍動を見るであろう  
〇さん達一放送話を闘うう  
十二月自衛隊進駐を実力  
のなかから階級  
する異地に立  
したんだらせ  
るのだ。  
青年行動隊一  
ックに我々が  
置く中核一四  
月以降行くこ  
を十分に體え  
敵底に「粉砕せよ、

# 塙の激闘を受 塙・放送

# 進馬 阻止

## 塔堅持十二月 けつぎ

立川基地自衛隊進駐阻止闘争は、十二月進駐実力阻止への巨歩を國家権力に対する軍の武器として堅持、強化しつゝ、休みなき戦線を報告すると共に、三重県闘争を追い切り「沖縄」批准阻止闘争へ広場へ総結集し、且つ自衛隊進駐阻止へ向け総力をあげて共に闘争へ

### 塔を防衛す て対峙し

進駐阻止

がから上の支離という名の物理行  
便にあること。  
④そして何よりも心聲一放送  
塔こそが十二月白衛隊進駐を押し  
進めんとする国家権の胸に突き  
さざる最も効な武器であるとい  
ふことが、中核派が我々を脅下派  
ブロックとか、反対同盟總体に  
かにな  
故彼の  
の存在  
あり、  
了解す  
されば  
隊間争  
へのじ  
を「〇  
である  
いた。  
きた諸  
有者、  
部)の  
立つて  
いる。  
明らか  
農民、  
持す。  
だ。た  
かう四

月阻止へ  
放送塔をめぐらす。緑豊かな、  
地主闘争と異なり、土地所  
は「一切譲渡せ得ない」と  
たたまれない焦りが、彼ら  
の立場に中核派としての立場に  
は「金民衆が、この全国の、  
それが自衛隊上層階級の焦  
りで、いつまでたまんねー放送塔  
とと思われる。  
・10路線を至らしめたの

支配階級・支配階級の内反民衆が、このようにして、相互關係の変容の過程で、過渡期世界における階級統合における二重統治の構造から、開拓地の視座から、その結果として、連闇過橋主義が現れる。これが、日本民族の反帝反封建的統一戦線をもつて、現代革命の完成へと導くものだ。

革命軍争・沖縄にばれていく革命をまたない。南洋開拓団によって、いざなふるものは最も恐れてやう相手であつて、そのものではない。われは先のところ、端初であるが、刀や部分が事の余裕と大衆のことを指摘したこと、水運であらわれたことも、ことである。「軍事」でたらあらわれてきたことである。けれどもこの限界に対し、運輸線〔大衆、武闘團線へ〕へも、始めてと見えきった局勢中でも消えするであろうことは、それは反帝戦線の行動戦線組織から始めるであろう。運動へわれわれは進撃を、運動へわれわれは進撃を開始せんための再編成を開始せん。冲縄遠隔定立拠点を、階級的支配層に痛打を加へよ。体制的危機の端初が大衆・民衆、諸階層の反社会的・政治的行動戦略へ転化せねばならない。行動戦略へそぞから本戦線へ着手せよ。部署一トト、人民衆、諸階層のたのたかみとしている。

利敵路線許さず、一〇・